



医療安全管理室

救急看護認定看護師 才田 智子

医療安全管理室では、組織横断的に院内の安全管理を担っており、医療安全に関する現場の情報収集や、院内ラウンドを行い、定期的な現場の把握・点検やマニュアル遵守状況を確認しています。

医療安全ラウンド

毎月、3～4 回程度、医療安全管理室長・医療安全管理係長・事務職をはじめ、各部署の医療安全推進者等が集まり、院内のラウンドを行っています。マニュアルの遵守状況や医療機器の管理状況等を点検しています。ラウンド結果は、その場でフィードバックを行い、後日、改善されているか確認をしています。



転倒・転落防止：多職種カンファレンス



転倒・転落ハイリスク患者を対象に、多職種チームでリスクを予測し、対策を検討することで転倒・転落が防止できることを目的にラウンドによるカンファレンスを行っています。

医師・看護師・病棟看護師長・担当理学療法士または作業療法士・病棟薬剤師・医療安全管理係長が、実際に患者のベッドサイドに行き、リハビリテーションの状況を見ながら、転倒・転落を防止できる療養環境や日常生活援助の方法について検討しています。

脳神経内科外来 再開のお知らせ

休止していた脳神経内科の診察につきまして、7月19日(火)より再開します。

月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
	金 一 晝			



暑中お見舞い申し上げます。平年より厳しい暑さとなっておりますが、皆様いかがお過ごしでしょうか。今回は認定看護師のチーム活動を紹介しています。よろしくお願い致します。

つながり No46 2022年7月発行
東近江総合医療センター 広報委員会
〒527-8505 滋賀県東近江市五智町 255 番地
TEL 0748-22-3030 FAX 0748-23-3383
<https://higashiomi.hosp.go.jp/index.html>

地域医療支援病院
滋賀県地域がん診療連携支援病院
独立行政法人国立病院機構
東近江総合医療センター



独立行政法人国立病院機構
東近江総合医療センター

Vol. **46**
2022/7

つながり



認定看護師のチーム活動の紹介

褥瘡対策委員会

褥瘡対策委員会は褥瘡発生の予防・褥瘡の早期治癒を目指し、医師を筆頭に多職種が専門的な知識を持ち寄り、対策を検討しています。私は皮膚・排泄ケア認定看護師としてチームの力が発揮できるよう多職種と連携をとっています。

チーム活動として

1. 院内の褥瘡保有者に対する褥瘡回診の実施（1回/週）
2. 褥瘡対策委員会の実施（1回/月）
3. 褥瘡予防・ケアの勉強会開催（4回/年）

勉強会は昨年度からリモートも併用して、近隣施設、訪問看護ステーションにもご案内しています。褥瘡や傷の治りが悪い、予防ケアはどうすれば・・・ポジショニングは？など こんなこと、あんなことなんでもお気軽にご相談ください。まずは地域医療連携室までご連絡ください。

皮膚・排泄ケア認定看護師 続宗 敬子



Infection Control Team (ICT)

Infection Control Team (ICT) は、病院における感染管理の実動部隊として活動しています。医師・看護師・薬剤師・検査技師・事務職員で構成され、院内感染防止活動はもとより地域の病院、施設、圏域保健所等からの依頼を受け、感染防止対策研修会の講師や他院からのコンサルテーション、患者さんへの個別での感染防止に関する相談対応も行っております。

また、厚生労働省院内感染対策サーベイランス (JANIS) や日本環境感染学会 (JHAIS) の医療器具関連サーベイランス、手術部位感染サーベイランス事業にも参加しております。サーベイランスにより監視することで感染症の動向を把握したり、対策の効果を判定したりしています。関連情報収集、検証、分析を経て 解釈結果を対象にフィードバックし対策に活かしています。

抗菌薬適正使用についても厚生労働省委託事業 AMR 臨床リファレンスセンターの感染対策連携共通プラットフォーム (J-siphe) に参加し、AMR(薬剤耐性) 対策に活用しています。日々の細菌検出状況・感受性を確認し適正な抗菌薬が投与されるように介入も実施しています。アンチバイオグラムについても半年ごとに更新し院内に発信しています。

ICT 主導での研究参加も行っており日本環境感染学会、国立病院総合医学会等で研究発表も行なっております。

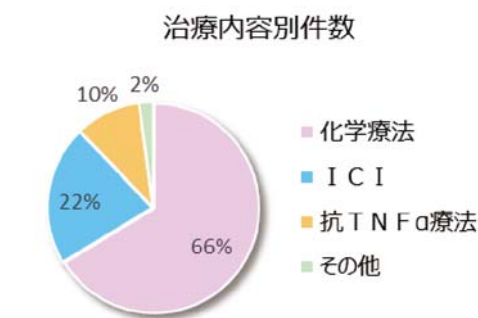
今後も感染管理活動を通して患者さんや家族・訪問者や医療従事者・地域の人々など全ての人を感染から守る活動を多職種と力を合わせて取り組んで参ります。



感染管理認定看護師 東出 美香

外来化学療法室

昨年度がん薬物療法看護認定看護師の資格を取得し、外来化学療法室で薬物療法を受けるがん患者様と日々関わっています。がん薬物療法は従来の殺細胞性抗がん薬だけでなく、分子標的薬や免疫チェックポイント阻害薬など、年々治療薬が進歩している分野です。そして、その治療の場は入院から外来へと移行しており、外来化学療法件数も増加傾向にあります。



がん薬物療法看護認定看護師 平塚 久恵



アピランスケアにも取り組んでいます
多職種カンファレンスの様子

がん薬物療法は一度で終わるものではなく、継続していくことが患者様の延命や症状緩和に繋がります。患者様が通院しながらでも安心、安全、そして確実に治療を続けるように、看護師だけでなく医師や薬剤師、栄養士など多職種でサポートしています。外来化学療法室で治療を受ける患者様には通院時に身体面だけでなく心理的な側面や経済的な側面での困りごとがないかお話を聞き、時には多職種でカンファレンスを開催して「その人」にとってより良い治療は何かを話し合っています。今年度からは少しずつではありますが、治療方針の説明の場にも同席し、患者様とご家族が治療内容を十分に理解して納得し、意思決定できるような支援を目指しております。

緩和ケアチーム活動について

緩和ケアは「がんと診断されたとき」から、他の治療と併用して始まり、全経過を通した関わりで気持ちのしんどさや治療に伴う苦痛・症状緩和に対応しています。緩和ケア認定看護師として、緩和ケアチームのメンバーとしての活動も行っており、チーム担当医師と薬剤師・緩和ケア認定看護師の3名で週1回病棟ラウンドとカンファレンスを実施しています。がんで入院している患者・家族のQOLの維持・向上のため、主治医や病棟看護師と連携を図り緩和ケアに関する専門的な知識や技術による症状緩和の提供を目標としています。カンファレンスでは、緩和ケア認定看護師として在宅療養を見据えた薬剤調整のことや「何か気になる」患者やご家族のことなど相談・連絡をうけ、多職種連携・専門チームへの橋渡しも行い、1人1人の支援を充実させていきたいと考えています。また今年度から緩和ケア認定看護師として、がん診療・がん看護の領域で専従の活動をしています。緩和ケアチームは週1回の活動ですが、専従として毎日、がん患者と家族のケアにタイムリーに関われるように活動しているので、症状を緩和しながらその人らしく日常生活が過ごせるよう、外来・入院、地域につなげていけるようにサポートしていきたいと思っております。

緩和ケア認定看護師 宮城 暢子

